

開講科目名	臨床実習3				
成績入力担当	児玉 裕三			開講区分	単位数
				後期	20.0単位
ナンバリングコード		曜日・時限等	他(対面)	時間割コード	3M988

授業のテーマ

これまでの基礎および臨床医学の授業、臨床実習1・2の学修にて獲得した知識、技能、対人スキルを活かし、大学病院および地域の病院のすべての診療科において、主治医団の一員、臨床実習生（医学）として診療に参加する。学生はチューターと相談し、実習先病院、診療科、期間などの計画を自身で行う。各科、2もしくは4週間ずつの実習とし、継続的なクリニカル・クラークシップを行う。学生は指導医の指導・監視の下で一定の範囲内での医行為を実践することができる。この実習を通して、医師としての根幹となる【臨床研修開始時に必要とされる技能と態度】、卒後研修につながる臨床能力、神戸大学医学部医学科が掲げるコンピテンシーの獲得を目指す。

授業の到達目標

神戸大学医学部医学科コンピテンシ、下記コンピテンシー項目を主な学習目標とする（臨床実習1・2・3で共通）。診療科ごとの到達目標は、手引き、BEEF+に記載する。

- I（全て） 礼儀・態度：患者や医療従事者等に対して良好な人間関係を構築することができる。
- II-3 科学的探究心：医学・医療において既存の知識・技能では対応できない問題点を抽出し、それらを解決する過程に参画することができる。
- III-4～17 知識と技能：基礎と臨床のバランスの取れた知識をもち、的確な臨床推理能力を有している。病態を理解し、それに則した基本的技能を習得している。
- IV-1 倫理観：医療人としての倫理に関する基本的な知識を修得し、社会の変遷を踏まえつつ、常に自己の行動を律することができる。
- IV-3 倫理観：医療者として常に利益相反が生じる可能性を認識し適切に対処できる。患者のプライバシーを尊重し守秘義務を果たす。
- V（全て）向上心：自ら目標を設定し、課題を抽出し、解決に向けた取り組みができる。長期的な展望にたち、有為の人材たらしめる気概をもっている。
- VI（全て）リーダーシップ：多様性を受容できる人間性をもち、リーダーシップを発揮して地域社会に貢献できる。
- VII（全て）国際性：広範な情報を収集・分析することができ、適切な議論ができる語学力と国際性を身に付けている。

授業の概要と計画

本実習は対面で実施する。
原則として、神戸大学医学部附属病院及び関連病院において、クリニカル・クラークシップを行う。
学生の自主性を重んじ、学生が主体的に考えた実習計画に沿った形で実施する。
個々の学生に対して臨床系の教授または准教授がチューターとなり、その実習計画の内容について学生と話し合い、適宜指導を行う。
チューターの承認のもと、「その他の実習病院」や「海外実習」も一定期間（原則1か月まで）認める。
神戸大学医学部附属病院における実習内容については、配布するガイドに記載する。
関連病院における実習内容については、クリニカル・クラークシップを基本として実習先のプログラムに従う。
本実習終了後には、臨床実習の総まとめとして、臨床実習発表会を開催する。学生は全員参加を必須とする。
また、海外実習を行った学生は、海外実習報告会への参加も必須とする。

成績評価方法

実習指導医・教員およびチューターが、評価表を用いて評価する。
各施設、各科の実習指導医、教員が評価を行い、最終成績は科目責任者が決定する。
①実習評価表
②病歴要約（各科で1症例）、外科手術症例では手術記録も作成
上記を総合して評価し、最終成績とする。
実習中に重大もしくは複数回のアンプロフェッショナルな行為が確認された場合、医学教育推進センターならびに教務学生委員会での審議を経て、本科目を不合格とすることがある。

成績評価基準

医療チームの一員として診療に積極的に参画するクリニカル・クラークシップにより深い知識や診察スキルを習得し、卒後研修につながる臨床能力を獲得できたかを評価する。

- ・技能と態度については上記①を用いて評価する
- ・症例の包括的な理解、考察力については②を用いて評価する
- ・①②から臨床能力の獲得について総合的に評価し、最終成績とする

履修上の注意（関連科目情報）

実習施設、診療科は事前に学生の希望により決定する。プログラムについては配布するガイド、BEEFに記載する。

事前・事後学修

医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）に準じた、診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目（第1.1版）（2024年12月）を読んでもくこと。

オフィスアワー・連絡先

チューターと各自連絡をとること。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

実習に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。

参考書・参考資料等

医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）に準じた、診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目（第1.1版）（2024年12月）

授業における使用言語

日本語

キーワード

臨床実習、クリニカル・クラークシップ